

「自然遺産」ではなく「文化遺産」の富士山・その吉田道

西 正子

昨年春の「村山道」につづく古道歩き第二弾は、富士山北口の「吉田口登山道」。荒廃していたのを10年ほど前に再整備した道だ。今回は富士山駅から五合目まで、標高差1410m、15kmの道のりを2日間に分けて歩いてみた。

- 2018年6月30日(土) 晴れ
- メンバー 西A 西M 岩崎
- 歩行 富士山駅→金鳥居→北口本宮浅間神社→中の茶屋→馬返し(約4時間)

富士急線は、富士のビューポイントを通過する時、速度を落とし、案内アナウンスを入れる。

記録的に早い梅雨明け。6月最終日は、遠望のきく絶好のハイキング日和となった。

猛暑の東京とは違い、富士山駅(810m)は、吹く風もさわやかだ。駅からは目と鼻の先、吉田道入口に建つ「金鳥居」から見る富士山の姿は、雄大に感じられた。

しばらくはまっすぐな車道を歩く。道の左右には、今も古い石門や灯籠が残っている。案内所の話では、これらは富士講の御師(世話人)の宿坊跡で、最盛期には80軒以上が、登拝者の世話をした場所だった。

30分ほどで「北口本宮富士浅間神社」に着く。1000年以上も前に神殿が建てられたという由緒ある場所で、深い杉林に囲まれた社殿は神々しい雰囲気がある。

明日7月1日は、お山開き。今日は前日祭として、登山門に張られたしめ縄を断ち切る「御道開き」の神事のほか、さまざまな儀式が行われる。かがり火の用意や動線の確保など、関係者は皆忙しそうだ。

私たちが古人にならい、拝殿にお参りした後、右奥の登山門から吉田道へと進んだ。周囲には、ザックの大きい登山者の姿もちろほら見える。

今日中に五合目まで上がり、1泊してから、山開きに合わせて登頂する人かもしれない。

ここからやっと自然の道に入る。並行して道路が伸びているが、車は少なく、さほど気にならない。

登山道の左右には、背の高いアカマツが立ち並び、とても美しい。景色を見ながらのんびり進んだ。後で知ったことだが、このアカマツ林、江戸時代のはじめ、雪崩を防ぐため30000本を信州から取り寄せて植栽したものだった。富士山の麓で雪崩が起きるなんて、今とはずいぶん気候が違っていただろう。

ひたすら伸びる道に退屈したところで「中ノ茶屋」へ到着した。「浅間神社」と「馬返し」のちょうど中間にあたる地で、昔の講者は誰もが休憩したという場所だ。今でもお蕎麦や軽食が食べられる。私たちが大休止を取り、食べ物を口に入れた。日陰に入れば暑さもなく、ウグイスのさえずりがきれいに聞こえる。

周囲には、富士講の人たちが建てたたくさんの登山碑がある。地元を離れる機会の少なかった時代の、富士登山にかける気合のあらわれだろうか・・・。

最後は、フジザクラの群生地を通過し、平らだった道に傾斜がつき、カーブを描きながら登っていくと、「馬返し」(1440m)に着いた。



馬返し上の石鳥居

●2018年7月16日(月・祝)

曇りときどき晴れ

●メンバー 横堀 西A 西M 岩崎

●歩行 馬返し→五合目(約4時間)

吉田道後半戦も天気にも恵まれた。日本列島は36度越えの高気圧に襲われたが、幸い、ここは標高が高い。空気がさらっとしていた。

富士山駅から馬返しまではタクシーで30分。3連休とあって、狭い駐車場は車であふれていた。昔の人が「馬返し」で馬を降り、誰もが歩いて山頂を目指したように、私たちも車を降り、靴紐を締めなおした。

歩きはじめてすぐのところに石鳥居がある。両側には「狛犬」ではなく「狛猿」の石像が…。なんでも富士山のお使いらしい。

古道らしく、石灯籠、石造物、神社や宿坊跡が点在し、昔の賑わいが想像できる。今日はといえば、登山者が数組。それに比べて多いのがトレランのグループだ。どう見てもハイカーの10倍はいる。それが登ったり下ったりをハイスピードで繰り返しているからすごい。皆、7月末の富士山レースの練習なのだ。(富士山市役所から山頂まで、標高差3000m、距離21キロを制限時間4時間30分以内で走るレース。←2018年の優勝は男子2時間39分、女子3時間11分)昔は行者、次に登山者、今はトレランの「富士山」なのかも？

道は階段なども刻まれ「ゆるやかな参道歩き」といった風情だ。あたりはミズナラやブナの樹

木も多く、日差しを遮ることができる。

明治以降ここから上が女人禁制だった二合目、山小屋が2軒あった三合目、など合目ごとに小休止をとりながら、順調に高度を上げていく。しだいに道は砂礫や黒い火山砂に覆われ、渡る橋下には溶岩流の跡。やっぱり富士山は火山だったんだ！

四合目をすぎるとコマツガやシラビソが森の主人公になる。ナナカマドやダケカンバなども並び、森がいきいきとしてくる。展望が開ける場所も多くなり、眼下には吉田の街が箱庭のように小さい。

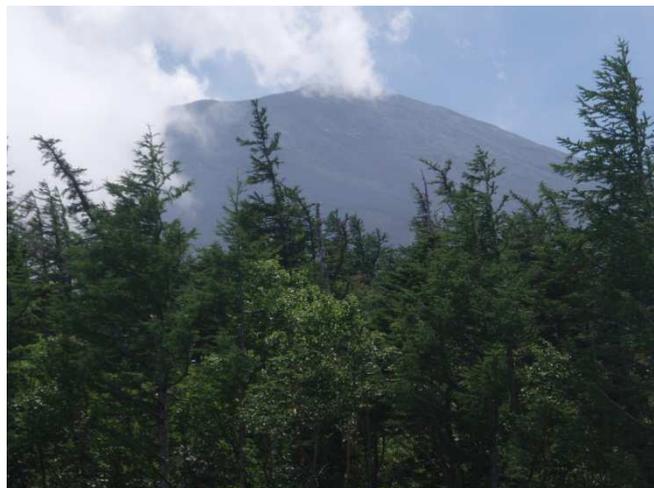
四号五号を過ぎると、道は斜度を増し、樹高も低くなった。やがて人の声が増えたと思ったら、そこが五合目佐藤小屋の前だった。

五合目バス停(2305m)までは巾の広い道を1時間弱歩く。バス停に近づくに連れ、山頂を目指す登山者とすれ違うようになる。たくさんの外国人、むしろ外国人のほうが多い印象を受ける人の群れだった。上を見ると青空を背景に富士の山頂がとても大きく、なんだか手招きされているような気がした。

さて、最後にお勉強タイムです。富士山が世界遺産になったのは2013年。古くからの山岳信仰、浮世絵など内外の芸術に大きな影響を与えたことを評価され「文化遺産」に登録されました。春夏秋冬、山の美しさで「自然遺産」に登録されたものではありません。間違えないでくださいね。



山小屋の跡



五合目からの富士山